

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成25年10月4日

雲仙普賢岳噴火災害は私たちが語り継ぐⅡ —大野木場メモリアル・デー2013—

発信元

雲仙復興事務所
調査課 峰松 知裕

雲仙普賢岳噴火災害で旧校舎が焼失した南島原市立大野木場小学校が、9月13日、災害の記憶を語り継ぐ「メモリアル・デー2013」を開催

旧校舎は平成3年9月15日に火砕流で焼失し、児童は避難先の仮設校舎で授業を続けました。このメモリアル・デーは、当時の辛い経験を忘れず、全国からの支援への感謝の気持ちを受け継ぎ、災害への意識を保ち続けようと毎年実施しているものです。

5年生16人は、6月11日に火砕流災害や雲仙復興事務所が実施する砂防工事を見学した成果(H25.7.9掲載のHotNews参照)を発表し、当事務所 佐藤事務所長より「将来の噴火に備え、災害の記憶を風化させないで、語り継ぐ活動が必要」とコメントがありました。

最後に、児童全員で、火砕流で被災したイチヨウが再び芽吹いた感動が込められた「生きていたんだね」を合唱しました。

このほかにも大野木場小では、ハザードマップ作成等の活動を続けており、雲仙復興事務所もその活動を支援していきます。



火砕流で被災した旧校舎とイチヨウ



災害学習報告(5年生)



全校児童による合唱

生きていたんだね
～校庭のいちよの木に寄せて～
校庭のすみのいちよの木が
ながい冬をすっかりたえて
春の陽ざしあびて、あたらしい芽をつけた
生きていたんだね お前のように
ぼくたちも わたしたちも
前を向いて 歩いてゆきたい
あの日もうもれた みどりの山に
すがたけた 小鳥の声が
春の風にとって このまちにももたらえてきた
生きていたんだね お前のように
ぼくたちも わたしたちも
前を向いて 歩いてゆきたい



展示(ハザードマップ)